

「銀彩」を考えてみよう

かなり前にセンターで金彩をやったことがありました。あれは何年前だったか。銀彩をやってみましょう。銀彩は金彩よりも落ち着きがあって、なじみやすく、いろいろ応用が効きます。まずは銀彩用に何か作りましょう。おすすめは、ルーシー調の縁が大きな鉢でしょうか。まあ、なんでもよいです。

銀彩を施すには、以下の4通りの方法があります。①から③までやってみようかと思っております。

- ①銀液・・・本物の銀を溶融剤に溶かしてあるもの。焼成後、磨くと銀色になる
- ②パラジウム液・・・銀ではないが、銀色になる。銀液と比べ、たいへんメタリックな仕上がりになる。銀駅より高価
- ③銀雲母・・・銀雲母という粉を表面に焼き付ける。粉がベースなので、多少マット調になるが、輝きは消えないし、なにより安い。
- ④銀箔・・・銀箔を貼り付け、その上に釉薬をかけ再焼成するもの。釉薬の下にあるので劣化しないが、たいへん手間がかかる。



銀彩が似合いそうな作品のイメージ



1キロの土(伊賀土おすすめ)を2等分し、半分で2周目に土台。底は1センチ。残りの500gでいきなりは無理なので、2本の紐を積んでまっすぐ作っていきましょう。少し広がっても良い。あまり薄くしないように。



ぶれがなくなったら、口を切り、なめし皮をかけます。コテで、内側から広げていきます。内側、外側、両方からコテをかけましょう。スポンジはあまり使わないようにね。